



株式会社 ケディカ

# 社員の動きと迅速な対応が 素早い再稼働の鍵となる



## 再稼働に向けた迅速な対応

株式会社ケディカは、仙台北部の泉工業団地に本社工場、岩手県に北上工場、フィリピン工場を展開する鍍金メーカーである。弱電業界、自動車業界、医療機器など幅広い顧客を持つ。試作・開発からの提案や、素材への超精密加工技術には定評がある。東日本震災では本社工場、北上工場が被災した。

専務取締役の三浦廣行氏は、宮城県仙台市の台原を車で走行中、震災に遭った。大きな揺れを感じ、周囲のドライバーも車を止めていたと言う。翌日、会社の状況が心配だった三浦氏は、朝の6時に出社し状況確認を行った。

ケディカでは以前より、地震に対しての対策には敏感であり、設備の転倒防止、耐震マット、書類の落下防止用バンド等の対策を行っていた。そのおかげで、仙台市で震度6弱～強を計測した今回の震災にも、被害を最小限に抑えることができた。

電気・市水は震災後1週間で復旧したが、都市ガスの復旧が遅く、同社では、早い段階で業務用灯油ボイラーの購入を決意。震災後8日目の3月21日には、工場を再稼働できた。三浦氏は「抱えている仕事は他社に流れてしまうのが心配だった」と語る。しかし実際は、顧客が代替加工ラインの認定をするには日程がかかることに加え、迅速な再稼働ができたため、ほとんど影響も受けることなく再稼働し、回復することができた。

工場内の細かな破損については、社員に専門的なスキルを持つ人間が多く、そのほとんどを社内で復旧させることができた。これも有資格者が多くいる会社の強みであり、それがまた、再稼働までの早さを実現した。

現在では、工場も仕事も、震災前と同じ状態に戻った。同時に、周囲への支援活動も行っている。

## 支援活動と省エネプロジェクト

早かったのは、工場の再稼働だけではない。震災後すぐに、各所から送られてきた支援物資や、自社に残っていた灯油等を、社員をはじめ周辺の被災企業へも配布した。

ケディカでは、事業の多角経営化を推進してきた。関連会社ではラーメン事業、うどん事業、教育事業などへの展開も行っている。今回の震災では、そのうちのひとつラーメン事業を通じて熊本の「とんこつ 味千ラーメン」と共同で定期的に炊き出しを行うことを早い段階からスタート。震災直後からこれまでに、13ヵ所で6000食以上を無料で提供してきた。

「この非常事態でも、社員同士が連携して動くことができた」と三浦氏が語るように、事前の準備や対策ができていたため、ピンチに強く、柔軟な対応が素早くできたのだ。

現在、震災の影響で、7～9月の使用電力のピーク時には東北電力の供給が間に合わないことが予想され、最大電力の15%の削減指示が出ている。これに対しケディカでは、「TwentyGOプロジェクト」と称し、社内でチームを作り、20%の削減を目標とするプロジェクトを進行中だ。各工場のライン別の消費電力を分析し、ピーク時の電力使用を分散させるため、電気ヒーターの蒸気化や一部ラインで昼夜逆転のシフトを組んだ。

また、エアコン、スポットクーラーの使用を控えるため扇風機50台を購入した。これにより、7月中旬の時点で25%削減の節電効果が出ている。

日頃より社員間でグループを作り、通常業務とは別にプロジェクトを進行するなどの活動を行っているケディカ。その姿勢により社員同士の連携が強まり、震災後の復旧も今夏の節電対策も力強く乗り切っている。



「ラーメンプロジェクト」  
「熊本とんこつ味千ラーメン」の  
経営者等と協力し、提供。



NCネットワークより届いた支援物資。  
社員及び家族、周辺の同業他社様へ配布を行った。

### Company Profile

- 会社名：株式会社ケディカ
- 代表者：代表取締役 三浦修市
- 所在地：宮城県仙台市泉区明通三丁目20番
- TEL：022-777-1351 / FAX：022-777-1357
- E-mail:mail@kedc.co.jp
- 設立：1946年
- 資本金：4,800万円
- 従業員：140名
- 業務内容：電気めっき 化学めっき アルマイト  
化成処理 黒化処理 カチオン電着塗装 パ  
レル研磨等各種表面処理